

サポートサービス

・ RIT で提供しているプログラムについて

RIT は 8 つの学部からなっている。NTID はそのうちの一つであり、準学士を提供している。

学士のレベルには、3 つのレベルがあり、その中の AOS、AAS は、学生が実際に職場で働くためのもので、職業専門学校的である。AAS プログラムは、3 ~ 4 年前にできたプログラムであり、聾者と難聴者が編入学できるようにするための教育を行っている。

NTID の他の 7 つの学部では、基本的に学士レベルの教育を提供しており、もしろうの学生が学士を取得したいのであれば、7 つの中のどれかから教育を受けなければならない。うち 4 つは、それぞれ別々の入学条件がある。それに関しては、後で説明をする。

もし聾の学生が、学士を取得しようとするならば、この学生サポートサービスが提供される。現在 NTID には、1,100 名の学生がおり、その半分の 500 人から 600 人程度の人たちが、主に学士取得のために学習している。

今回は、4 つのサービスのうち、一つのサービスについて説明する。他の 3 つもほぼ同じ内容である。

・ 学生サポートサービスについて

そのサービスの内容は大きく 2 つに分けられる。一つはアクセスサービス、もう一つはアカデミックサービスである。ここでは、アクセスサポートサービス、主にノートテイキングサービスについて述べる。

ここには多くの通訳をする人がおり、この人たちは 100,000 時間の通訳サービスを提供している。ノートテイキングに関しては 50,000 時間を提供している。なぜ、通訳とノートテイキングの時間に差があるのか。それは、ソリューションテクノロジーすなわち C-print などの技術的なサポートがあるため、ノートテイキングの方が時間が短いのである。そのほかにノートテイカーが 4 人いるのに対して通訳は 2 人しかいないというのも時間に差ができる理由で

ある。ひとつのクラスで2人通訳がいる場合は、2時間で換算するのに、ノートテイキングの場合は1人とするので、それが時間の差になって現れてきている。その他、スタジオやラボでの授業に関して、ノートテイキングは必要ないけれども、通訳は必要になる。これも時間の差になって現れる理由だという。

白澤記録:通訳時間とノートテイク時間の差は? 一つのクラスで手話通訳は二人つくが、ノートテイクは一人しかつかないので時間数が少なくなる。また、実習などは手話通訳だけでノートテイクをつけないことも多い。さらにC-printなど文字通訳を利用するときはノートテイクが不要になるので数が少ない。

1. ノートテイカーになるための必要条件

ここに提示しているのがノートテイカーになるための必要条件である。ここに書いてあることをノートテイカーを受ける学生がやらなければならないことである。すべてクラスで行われていることを記録しなければいけない。それがノートテイカーの役目である。

2. ノートテイキングの提供方法

学生はオンラインを使って、所定の記入をする。

学生がリクエストすると自動的にコーディネーターのところにリストが出来上がる。

それを使い、通訳が必要であるという募集をかけたり、このクラスにはノートテイカーがつかますよという手紙を先生方に送ったり、学生に対して、ノートテイカー派遣の報告を送ったりすることが自動的に楽にできるようになるコンピュータシステムになっている。

これだけ多くの学生がいて、クラスが多いのでオンラインで依頼することは理にかなっていることだと思われる。昔は、一つひとつリクエストの依頼を用紙に記入し、手渡して行っていた。現在は、学生数が多くなり、オンラインシステムによって、便利になってきている。

3. リクエストプロセス

一端ノートテイカーのリクエストがされると、オンラインシステム上に「ノート」というマークがつけられる。それをクリックすることで、学生は、オンラインで自分のノートテイカーの状況を見ることができる。実際に講義でとったノートはスキャンされ、システムの中に組み込まれていき、ノートテイカーの書いたノートをみることができる。

全クラスの内容などの詳細は、すべて一覧で出てくる。毎週毎週コースをとるたびに、授業の内容が記録として残り、毎日記録更新が行われている。スキャンされたノートは、4年間保存される。かつては手書きでコピーをしていたが、現在は先端技術を使い、便利になってきている。かつてはコピーしていたので、紙がたくさん必要で、もったいなかったが、コンピュータの利用でその問題は解消された。このオンラインシステムができた背景としては、学生の要望が大きい。

4. ノートテイカーの養成について

ノートテイカーが必ず受けなければならないコースがあり、2つのトレーニングの方法がある。出向いてトレーニングを行う方法と、オンラインを使った方法である。

1) コースで指導する内容

- Writing:間違いなくスペルができる、読みやすく書く、など
- Page Formatting:どんな風にノートテイカーがノートテイクをするのが理想であるか。Formattingとは、ノートテイキングの形式。
- Formatting ストラテジー:学生はすべての情報を知りたいので、ノートテイカーは、すべてを書く必要がある。
- Emphasis: ノートテイクをするにあたって強調したい箇所・ポイントなどを示す。
- Listening Cues: クラスで何が起きているのかを知るための手がかりとするために、場所、声の調子、動作など、大事なことを記入する。大事なことを話すときには、教師は間をおいたりする。こうした時には書き漏らさずに、きちんとノートテイキングする。また、教師のつかっている声のトーンや繰り返して言っていることなどもきちんとノートテイキングする。これらは、健聴学生が聾学生のためにノートテイクをするにあたり常に意識しておかなければならないことである。
- Class ストラテジー: ノートテイカーがクラスの中で必要とされるテクニックのこと。
- Expectation: ノートテイカーに期待されること。10分前にくる、授業が終わった後も10分後にも残る。これは授業後も重要なことが起こるかもしれないからである。強調したいことは、ノートテイカーは1時間6ドル42セントのお金をもらって雇用されているということ。他の職業と同様にお金をもらっていることなので、ノートテイカーにもしっかりやってもらわないといけない。

5 . ノートテイカーに対する評価

ノートテイカーは、学期が終わるごとにコーディネーターにあってノートテイカーとしての質のチェックを受けるシステムとなっている。またコーディネーターと会う前に、ノートテイクを受けている聾学生からのチェックを受けている。そしてコーディネーターは、聾学生からの情報をもとに話を進めたり、ノートテイカーに対して質疑応答をしたりする。コーディネーターとして聾学生が言っていること、ノートテイカーが、これまで指示したことをしっかり守っているのかをチェックし、評価するようにしている。これは、コーディネーターがノートテイカーを雇い、仕事をしていく上で、非常に大切なところである。

また、ノートテイカーに対する評価は、コーディネーターによる評価のほかに、チューター（指導員）による評価と、クラスを教えている教授の評価もある。

授業が終わった後に手書きのノート、あるいはコンピュータで処理したものをコーディネーターに渡さなければならない。コーディネーターへのコンタクトは、手書きで書くこともできるし、コンピュータによるキーインもできる。ノートテイカーの人たちは、自分のコンピュータをもってきている。コンピュータの利用は増えつつある。その他にノートテイカーの組織からタブレット PC が提供されることもあるが各自のコンピュータを使っている人が多くなってきている。1,200 ドルでタブレット PC は購入できる。仕様によって値段は異なる。